

## 執筆者紹介

### 曹 喜眞 (チヨ・ヒジン)

東京外国語大学大学院博士後期課程在学中

東京外国語大学を卒業後、同大学大学院博士後期課程に在学中。大学院では、日本の古典和歌と朝鮮の古典詩歌である「シジョ」を研究している。両詩歌を対比研究することで両国の詩歌文学の特質や文学的感受性等についての考察を試みる。

### Magali BUGNE (ビューニュ・マガリ)

ストラスブール大学大学院博士課程在学中・早稲田大学特別研修生

室町時代の金春禅竹の能楽伝書の研究を行っている。2010年にフランスのストラスブール大学において、修士論文「世阿弥の夢幻能の創造過程」を執筆した。同年、ストラスブール大学大学院日本語日本文化学科博士課程に入学した。

2010年にアルザス欧州日本学研究所に入り、2012年、日本の文部科学省の奨学金を受け、特別研修生として早稲田大学大学院文学研究科に入学した。

### Patrick SCHWEMMER (パトリック・シュウェマー)

プリンストン大学大学院博士課程在学中・国文学研究資料館外来研究員

プリンストン大学大学院比較文学科博士後期二年生。国文学研究資料館での外来研究者として、17世紀の近世転換期において幸若舞曲がいかに廃れて、あるいは生まれ変わったか、舞曲を題材とした奈良絵本・絵巻、古浄瑠璃、そして舞曲の影響が顕著であるイエズス会日本文学を追究した博士論文の執筆を行っている。

### 洪 晟準 (ホン・ソンジュン)

東京大学大学院博士後期課程在学中

檀国大学校・同大学院修士課程卒業。東京大学大学院の研究生課程・修士課程を経て、現在は博士課程に在籍。研究分野は、日本近世文学、主に曲亭馬琴の読本である。発表論文に、「馬琴史伝物読本における人物造型－『俊寛僧都嶋物語』を中心に」(『東京大学国文学論集』7、2012-3)、「『椿説弓張月』と崇徳院怨霊譚－為朝像の造型に関わる点に注目して」(『日語日文学研究』82-2、2012-8)、「馬琴史伝物読本の構想－史伝物模索期の作品を中心に」(『日本学研究』37、2012-9)などがある。

### Imran MOHAMMAD (イムラン・モハンマド)

専修大学大学院博士課程在学中

インドのデリー大学、JNU大学を卒業。2007年に国費留学生として東京外国語大学に在学し、2009年に専修大学に入学。松尾芭蕉を研究しており、博士課程では、ヒンディー語の詩人であるアッギューエと松尾芭蕉を比較しながら、研究を進めている。

更に、2010年にイブン・ハルドゥーン協会、(東京)、2011年に公益財団法人世田谷文化財団(東京)、2012年に国際交流基金(インド)の発表会に参加し、2013年に『専修国文』に「文学面から見たヒンディー語の歴史」という論文も発表した。

### **Jyana BROWNE (ジャナ・ブラウン)**

ワシントン大学大学院博士課程在学中・早稲田大学外国人研究員

専門は演劇歴史—人形浄瑠璃。出身の大学はエール大学。大学を卒業してから、一年間神戸の甲南大学で留学した。今年、国際交流基金の日本研究フェローシップ事業のおかげで早稲田大学外国人研究員。博士論文のテーマは18世紀初頭の大坂と人形浄瑠璃世界の関係。

### **常田 槇子 (ツネダ・マキコ)**

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程在学中

早稲田大学卒業。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。研究分野は『源氏物語』のフランス語訳。論文に「ヤマタ・キクによる仏訳『源氏物語』——ウェイリー訳との対比からみえる独自性——」(『平安朝文学研究』、復刊第19号、平安朝文学研究会、2011・3)、「ヤマタ・キクによる仏訳『源氏物語』——出版の背景と受容の様相——」(『平安文学の古注釈と受容』、第3集、武蔵野書院、2011)などがある。

### **胡 穎芝 (コ・エイシ)**

香港城市大学人文・社会科学部修士課程在学中

香港城市大学(City University of Hong Kong) 人文・社会科学部修士課程三年生。専攻は近代日本文学、特に漱石文学の研究。修士論文は夏目漱石『草枕』における漢籍の影響、主に『草枕』に見られる中国「遊仙文学」の構成要素に関する研究を行っている。

### **劉 穎 (リュウ・エイ)**

安田女子大学・京都精華大学非常勤講師

平成10年中国大連外国語学院卒。同年来日し安田女子大学大学院に留学。平成19年同大学院日本語学日本文学専攻博士後期課程修了。研究分野は日本近世文学。研究論文は「馬琴と鍾馗——『摸稜案前集』巻五を軸に——」(『鯉城往来』第9号)、「阪東陽著『聴訟彙案』について——『智囊補』受容史の一コマ——」(『安田女子大学大学院文学研究科紀要』第12集第12号)、「中国における浮世草子の翻訳・出版とその研究について」(『西鶴と浮世草子研究 第三号特集[金銭]』)などがある。

### **井上 泰至 (イノウエ・ヤスシ)**

防衛大学校教授・国文学研究資料館客員教授

上智大学大学院単位取得満期退学。研究分野は、『雨月物語』・武士の文学・人情本・近代俳句。『雨月物語の世界』『サムライの書斎』『秀吉の対外戦争』

(共著)『恋愛小説の誕生』『江戸の文学史と思想史』(共編)『江戸の発禁本』『子規の内なる江戸』。2013年8月、ソウル大学公開シンポジウム「東アジアの武将伝」で、江戸時代の軍記について発表。

### 武田 祐樹 (タケダ・ユウキ)

二松学舎大学大学院博士課程在学中

立教大学文学部日本文学科出身。現在は二松学舎大学大学院文学研究科中国学中国学専攻博士課程二年に在学している。現在の研究テーマは、幕藩体制下における学術で、今回の発表では林羅山・鷲峯親子が手掛けた修史事業に着目し、この事業の中で実践された彼らの学術の特質を論じた。

### 呉 佩珍 (ゴ・ハイチン)

台湾国立政治大学台湾文学研究所准教授。

日本近代文学、日台植民地期比較文学、文化。主な著書に『真杉静枝と植民地台湾』(中文、聯経出版、2013年9月)、“The Peripheral Body of Empire: Shakespearean Adaptations and Taiwan’s Geopolitics,” *Re-Playing Shakespeare in Asia*. (Poonam Trivedi ed., 2010, Routledge) など、主な翻訳書に Faye Yuan Kleeman 著『帝國的太陽下：日本的台灣及南方植民地文學』(日本語版『大日本帝国のクレオール』)(英譯中、麥田出版社、2010年)、津島佑子著『太過野蠻的(あまりに野蛮な)』(日譯中、印刻出版、2011年) など。

### Chiara GHIDINI (キアラ・ギディーニ)

ナポリ東洋大学講師

東アジア宗教の歴史と日本民俗学／近代文学。主な著書に “Narrating Women and Ancient Japan” (2010)、“Aware. Storia semantica di un termine nella poesia giapponese classica” (2012)。主な論文に A “confucian” Epaminondas in Meiji Japan “(2013)、“The Unjami Ritual at Iheya Island in the Northern Ryukyus A Preliminary Study” (2012)、“Elisir letterari nel Man'yōshū” (2012) など。

### 小嶋 菜温子 (コジマ・ナオコ)

立教大学教授、日本古典文学・文化。主な著書に『源氏物語批評』(有精堂、1995)、『かぐや姫幻想』(森話社、1995)、『源氏物語の性と生誕』(立教大学出版会、2004)、『源氏物語と江戸文化 可視化される雅俗』(森話社、2008)、『源氏物語と儀礼』(共編、武蔵野書院、2012) など

### Maria Teresa ORSI (マリア・テレサ・オルシ)

サピエンザ大学名誉教授、日本語・日本文学研究・翻訳。主な著書に “Sotto la foresta di ciliegi in fiore di Sakaguchi Ango” (1993、講談社)、「I demoni guerrieri di Ishikawa Jun」(1997)、「Fiabe giapponesi」(1998) などがある。近刊に源氏物語を古典日本語からイタリア語に翻訳した「La storia di Genji」(2012)。

### Sharalyn ORBAUGH (シャラリン・オルバー)

ブリティッシュ・コロブイア州立大学教授、日本近現代文学、大衆文化。主な著書に *Japanese Literature of the Allied Occupation: Vision, Body, Identity* (『占領期における日本文学：視覚、身体、アイデンティティ』、Brill, 2007)、*Propaganda Performed: Kamishibai in Japan's Fifteen Year War* (『パフォーマンスとしてのプロパガンダ：十五年戦争期の紙芝居』、Brill, forthcoming 2014)、『振り子の揺れ：連合国軍占領下における紙芝居と検閲』（鈴木登美、十重田裕一、堀ひかり、宗像和重編「検閲 メディア 文学、江戸から戦後まで」、新曜社、2012）など。

### 中川 成美 (ナカガワ・シゲミ)

立命館大学教授

日本近現代文学・文化。主な著書に「語りかける記憶—文学とジェンダー・スタディーズ—」（小沢書店、1999）、「モダニティの想像力—文学と視覚性—」（新曜社、2009）、共編書に「女性作家集」、新古典文学大系《明治編》23（岩波書店、2002）、論文に「支配の言葉・融和の言葉——日本語文学という概念をめぐって—」（郭南燕編「バイリンガルな日本語文学」所収、三元社、2013）など。